平成２６年度 第２回佐倉市景観審議会 議事録（要録）

日　時	平成２６年８月１８日（月）１４時００分～１６時００分
場　所	佐倉市役所 １号館３階 会議室
出席者	木下会長、片桐副会長、石毛委員、内田委員、小出（一郎）委員、小出（淑子）委員、佐藤委員、関口委員、田邉委員、中島委員（五十音順）

内　　容

〇開会

〇会長挨拶

〇内容

（１）佐倉市景観計画について

景観形成の方向性（案）について、事務局より報告

委員　：国内では、余程の観光地でない限り、車社会を背景とした、どこにでも当てはまるような風景となる。その中で佐倉らしさとは何かというと、旧市街地の高台から市街を見渡せることや、坂が多いことが挙げられる。また、少なくなってはきているが、佐倉には非常に蔵が多い。伝統的建造物群保存地区や文化財クラスではなくても、そういった建物のつながりが重要だと思う。また、ふるさと広場の風車は、もともとあったものではないので、歴史や文化とはあまり関係がないのではないかと感じた。全体的に、歴史や文化、地域性や個性などによる景観形成といっている中で、風車は観光の要素が強いと思う。そのような点から、市民の方に共有されているのか疑問に感じる。また、高い土塁で囲まれている武家屋敷の景観は、他地域の武家屋敷やまち並みとは異なる特性があり、異空間のように感じる。しかし、周辺とのつながりが欠けており、そこに行くまでの道のりに期待感を感じることができない。トタンやブロックの塀を生垣に変えるだけでもかなり雰囲気が変わってくる。修景事例のビフォアー・アフターのシミュレーション画像を作成するなど、視覚的に訴えると伝わりやすい。市民の意識の共有化にもつなががるのではないか。

委員　：まち並みは、今残されているものを調査して、どの時代にまで戻すのかということになると思う。残っているものの中で、統一性がある時代として江戸時代や明治・大正時代に、という流れになってくる。建物を保存するためには、防火構造などに対応する必要があるため、お住まいになっている方の意識が統一されていないと、まち並みとしてはばらばらになる。また、市民の方は目的がなければ歩かない。目的があり、人が歩くと商売が発展し、それが地域性になる。佐倉には何があるのか、ということを考えていかないと、どこも同じようなまち並みになってしまう。

委員　：ふるさと広場は、佐倉のイベント広場として、年間を通して様々な花で彩るという取り組みが実施されている。広場の中で、風車はシンボルタワーといったイメージ。チューリップフェスタは、約１か月間にわたり開催し、約１０万人を集客している。今年は、市政６０周年として６０万本のチューリップが植えられおり、関東でも有数のイベントとなっている。佐倉藩がオランダと密接な関係があったことから、風車が作られたという経緯がある。現在も日蘭協会という団体があり、風車を利用したイベント等を行っている。佐倉の歴史と直接の関係はないかもしれないが、現在はイベントのシンボルのひとつであると個人的には捉えている。

会長　：オランダ人技師が印旛沼の改修に関わったこともあったかと思う。風車があの場所にあったわけではないが、歴史的なつながりはあるといえる。

事務局　：蔵については、文化課で実施した市内の歴史的建造物の悉皆調査の結果を参考として、関係各課と連携する中で方向性等を検討していきたい。また、７月～８月にかけて実

施した地区別の懇談会、特に臼井・千代田地区においては、ふるさと広場の風車についても多くのご意見をいただいている。市民の方に親しまれている、大切にされている風景のひとつとなっているという印象だった。

委員　：時代の積み重ねはあるが、佐倉城があってこその城下町ともいえる。武家屋敷や旧堀田邸、金毘羅様等を線でつなげて誘導できないかと思う。武家屋敷の地区内にある料理屋や、新町地区の和菓子屋などには、貴重な骨董品等が飾ってある。そういったものに、いかに関心を持っていただくか。時代祭も、もう少し盛り上がる要素があると良いと感じる。武家屋敷やお店などを関連させながら、人の流れをつくってはどうか。

委員　：武家屋敷から離れている場所にある旧堀田邸、佐倉城址公園、坂などを線でつなげると良い。城と城下町が一体的にこれだけ残っているという状況は、関東では数少ない素晴らしい事例。まち並みの整備のほかに、市民の方に対する普及活動など、総合的に取り組む必要がある。このような活動を通じて、他の地域にないものができていくのではないかと感じている。

委員　：ふるさと広場の風車についてご意見があったが、こういった議論こそあるべきだと感じた。景観は、単にある段階のものを守れば良い、というものではなく、市民の意思によって、ある方向に変えていくこともできる。単純に風車があるから、ということでは、本当に大切なものが見えなくなると思う。オランダ風車は、市民にとって愛着があり、生活に根差していることから、個人的にはあっても良いと感じるが、「市民にとって大切なもの」ということを景観計画の中で意思表明されるべきではないかと思った。価値判断がぶれるものもあり、すべてを景観計画の中で決めていくことは難しいと思うが、そういったものをどのように取り扱うか、今後考えていく必要がある。また、武家屋敷へのアプローチなどについては、市民がどのような理由に基づいて景観形成を進めていくのか、という視点を明確にする必要がある。現段階では、実現化方策の基本的な考え方としてメニューが挙げられていると思うが、何のために普及啓発を行うのか、市民に理解を求めていった先に、市民の方が何を感じ、何をしたいと感じるのか、それをどのようにサポートするのかといった、施策同士のつながりがなければ実効性のある施策にはならないのではないか。総合的な施策として、各項目がどのように関連して、施策を後押ししていくのか、というところを次回の審議会で織り込んでいければと思った。

委員　：本来は、軸とエリア、拠点が重なって景観を形成していくものだが、それぞれの施策が分かれてしまっているという印象があり、関係性が分かりにくくなっている。例えば「軸を守るために〇〇します」という表現よりも、「軸を守るとこんなまちになります、生活ができます」といった部分を表現すると良いのではないか。景観形成のためというよりも、生活を豊かにするための計画だと思うので、景観計画を策定する目的も含めて検討していただきたい。

会長　：軸、エリア、拠点の説明をするときにも、それぞれ個別に考えればよいということではない。軸とエリアの方針をそれぞれ作成した結果、齟齬が生じる可能性も考えられる。そのような部分の整理が早い段階で必要だと感じた。また、いつの時代に戻すのかというご意見があったが、これは何を目的にするかということにも関わってくる。例えば旧城下町周辺においては、近世のまち並みが完全な形で残っている、といったことが現状で確認できない中で、どの時代に戻すかというより、「近世のまち並みの中に、新しいものが溶け込んできて、佐倉らしさを形成している」という捉え方をした方が良いと感じている。

委員　：軸、エリア、拠点、それぞれの方針が誰に向けたものかという視点で考えると、軸はほぼ公共施設に対する方針として設定されており、エリアはほぼ民間の景観誘導のため、拠点では両方が関わってくると思う。公共施設が果たす役割はかなり重要であり、広域を貫く部分の多くは公共が担っている。景観形成の基本的な方向性に「景観への意識を高め、育む」とあるが、本当に意識を高める必要があるのは、市民より庁内で

あることが多い。特に景観計画の初動期には、景観計画を運用しながら、方針に合わない色の公共施設などを作ってしまうのは、ほぼ公共であるといった事例が多い。そのようなことがないように、庁内の意識を高めていただけるような視点を重要な柱として位置づけることが必要ではないか。また、公共施設による景観整備において、ガイドラインを作成することも重要だが、前提として景観という取り組みが、今のまちづくりにとって不可欠な課題であるということを、庁内や県・国の方と共有できる土壌がなければ、協議の場において有意義なやり取りをすることは難しい。公共の中で合意形成を図るということは、景観計画を円滑に運用していく上で、非常に重要であると思う。例えば、松戸市では、景観の重要性が庁内でも普及してきており、小規模な小学校などの改修工事でも、すべてアドバイザー会議にかけるようになっている。長寿命化のための塗り替えの際も、かなり小規模な桁橋までアドバイザー会議にかけて、丁寧に調整されるようになっているので、佐倉市でもそういった流れがつくれるように取り組んでいけると良い。

委員　：武家屋敷をはじめ江戸時代の風情を尊重しているようだが、佐倉市は連隊の歴史もあり、その時代に風景が一変したようなところもある。ひとつの時代には絞り切れないような部分もあるのではないかと思う。

委員　：地区別懇談会における意見は見せていただけるのだろうか。

事務局　：９月末ごろに市のホームページ等で公表する予定で作業を進めている。

委員　：京成佐倉駅周辺など、何かしらの動線を整備することが必要なのではないか。特に外から訪れる人は全く分からないだろう。また、昔の街道筋でもある国道２９６号等をもう少しアピールしてはどうか。形から入るのもひとつの手段だと思う。このほか、新町地区で進められている協議会の検討内容もお伺いしたい。

会長　：具体的な景観計画の方向性は地元の住民の方による話し合いで決まってくると思う。

事務局　：景観形成重点区域の位置づけは総論的に記載している。新町地区はモデル地区として、住民の方により組織された協議会において具体的な方向性等の検討を進めている。地域でまとめた方向性等を、市が作成している景観計画に位置付けていくという流れを想定している。

委員　：ワークショップは、様々な人が参加されている中で、決められた時間内で議論を深く掘り下げて、つなげていくことが重要となる。景観に対する意識は様々であるが、自分のまちを知り、見つめなおし、人に案内することができるように取り組んでいくと、意識が芽生えてくるのではないか。地域外からの視点でみることは大切だと思う。

委員　：地区別懇談会のほか、新町地区の協議会にアドバイザーとして参加させていただいているが、「佐倉らしさや地域の良さに、地域の方自身が気が付いているのか」という課題が必ずでてくると感じている。そうしたところを踏まえた時に、景観資源を活かした景観まちづくりや、市民活動の支援を目的とした情報共有・価値の再発見という項目が重要なものとなる。さらに、それらの価値を地域内や地域外で理解・共有しようとしたときに、地域同士をネットワーク化し、市内全体をどのように理解していこうか、ということになってくる。情報共有・価値のネットワーク化等で各段階を戦略的な視点で計画に位置付けなければ意味がないと思う。

会長　：私も地区別懇談会に参加させていただいたが、第三者の視点からは分からない地域独自のご意見のほか、厳しいご意見もあった。このような意見等を審議会の皆さんで共有できるように、早目に地区別懇談会の意見を整理していただきたい。

委員　：佐倉の旧城下町は、京成佐倉駅とＪＲ佐倉駅のほぼ中間にあり、どちらから行っても坂があるため、歩いて行くには大変なところ、というイメージがある。武家屋敷や旧堀田邸、順天堂など、歴史的なものが点在しており、中間にある新町通りは電線の地中化ですっきりしたが、周辺は全く変わっていない。佐原や川越は、歴史的なものがまとまって残されているが、佐倉はそこまで望んでいるのだろうか。そこまで望むのであれば、地域の方の負担も大きくなる。観光地としてのまち並みまで望むのか、住

む人のことを考えた環境づくりをしていくのか。

委員　：城下町として、連隊のまちとして生きてきた、今ある生活環境がまちの誇りや愛着につながっていく。そこに訪れてくれる人がいると良いと思う。はじめに観光ありきではなく、住んでいる人の環境と、今まで織り成してきた歴史環境を大事にしていくということだと思う。今の状態の中でどうするかということ。この地域には、城址公園から旧堀田邸まで江戸時代の地図で歩けるくらい、道筋がそのまま残っている。特に細い道や坂はそのまま残されているので、上手く活かしていけると良い。

委員　：佐倉・根郷地区の地区別懇談会では、高齢化して若い人がいないという意見があった。生活環境の維持管理も高齢の方では大変という意見を聞いていると、どの程度のものを対象とした方がよいのか、どこまでやるべきなのかと思う。

委員　：現段階で観光化が目的ではないと決める必要はないと思う。景観法は、きっかけづくりだと捉えている。佐倉らしさは何か、というような行政からの呼びかけが全くなければ、良いものはどんどん失われていくと思う。良い所に落ち着くように一生懸命議論をするべきであり、今後どう変化していくかは分からないが、少しでも良くしていくという方向で、意識を共有することが大切だと思う。

委員　：佐倉が舞台となっており、若い人に人気がある「弱虫ペダル」というアニメを題材としたスタンプラリーを開催した。点の資源を自転車により線で結んだところ、すごい人気となり佐倉の宣伝にもなった。ただ、今までの議論でも挙がっているように、市内の方と来訪者の方に温度差があった。初めて佐倉を訪れた方には、市で発行しているパンフレットを渡し、効率よくポイントを巡れるように案内を行った。一方、市内にお住まいの方には、パンフレットをほとんど活用していただいていない。旧城下町の良さも灯台下暗しという状況になっているように感じる。

会長　：お住まいの方からは、資源はあるが、つながりがないという意見も多い。住んでいる方は、お気に入りの散歩道や道中に、景観のつながりを意識できるようなまち並みを期待されているのだと思う。

委員　：昭和５６年度に佐倉の武家屋敷を調査したときには、関東でも有数の残存数と言われていたが、かなり失われてしまった。

会長　：今回は、エリアや拠点の設定等についてご確認をいただいた。自然・田園エリアと市街地エリアがあり、市街地エリアはさらに細分化されている。構造としては、田園エリアに島状に市街地エリアが浮かんでいるという状況。このエリアを軸が串刺しているという状況のため、相互の関係が大切になるというご意見だったかと思う。拠点については、エリアや軸に沿って、このような拠点が考えられるのでは、ということですが、よろしいでしょうか。非常に大切なところなので、ご意見があればまたお寄せいただければと思う。

（２）景観計画地区別懇談会の実施について（中間報告）

地区別懇談会の実施結果（中間報告）について、事務局より説明

委員　：佐倉・根郷地区の懇談会では、町内の高齢化や、空き家が目立ってきているという意見も挙げられていた。田園風景にほっとするという意見も多かったと思う。

会長　：そのような意見がある一方で、県道の草刈りなどに地元の力を活用して欲しいというご意見もあった。地区によって様々だと感じた。

委員　：自分のまちの魅力を理解し、住みやすいと感じている方が多いと感じた。

委員　：参加させていただいた志津地区では、自分たちで自分たちのまちを良くしていきたいという意識の方が多く参加されていたという印象があった。景観法の枠組みを越える部分になるが、市の独自事業として展開する、または各施策と連携するという形の中で、市民の活動支援について、景観計画の中に具体的な内容で位置付けていく必要が

あると感じた。具体的に「このような制度で支援する」ということを打ち出した方が良いと思う。市民活動を始めたいと思う方は一定数いると感じたので、最初の糸口になるような具体的な施策として作っていきたいと思う。

（３）その他

次回以降の景観審議会の予定等について

〇開会